

平成22年度
登別市中学生海外派遣事業
研修報告書

目次 登別市中学生海外派遣事業の概要

1	事業概要
2	研修会等日程表
3	引率者・派遣生徒&ホストファミリー名簿
4	6 派遣日程表

紀行文

7	8	8月16日(月)	佐藤隼己	緑陽中学校
9	10	8月17日(火)	新井優香	幌別中学校
11	12	8月18日(水)	松田綾希子	明日中等教育学校
13	14	8月19日(木)	山田涼佳	鷺別中学校
15	16	8月20日(金)	佐藤啓陸	西陵中学校
17	18	8月21日(土)~22日(日)	横山凌太	登別中学校

感想文

19	20	横山凌太	登別中学校
22	23	新井優香	幌別中学校
24	25	佐藤啓陸	西陵中学校
26	28	佐藤隼己	緑陽中学校
29	31	山田涼佳	鷺別中学校
32	34	松田綾希子	明日中等教育学校

引率者報告書

35	44	団長 勝洋一	鷺別中学校校長
45	48	引率教員 堂坂桃	緑陽中学校教諭

事業概要

目的

次代を担う青少年が、諸外国の生活習慣や文化に触れることを通して、異文化への理解を深め、国際社会に対応できる豊かな人間性を身につける。

訪問国及び都市

デンマーク王国 (Kingdom of Denmark)
ファボー・ミッドフュン (Faaborg-Midtfyn)
オーデンセ (Odense)

派遣期間

平成22年8月16日 (月) ~ 8月22日 (日) 6泊7日

交流内容

《 学校訪問 》 リンゲ : リンゲフリー校
オーデンセ : ヘンリエッテ・ヘアルーク校

《 表敬訪問 》 ファボー・ミッドフュン市

《 施設見学 》 ウィスリンゲ : イーエスコウ城
ビルン : レゴランド
オーデンセ : アンデルセン博物館
リンゲ : 図書館・老人福祉施設

研修会

《 事前研修 》 英会話、デンマーク語、文化、歌など (7月4日 ~ 8月13日 計10回)

《 講師等 》 引率教諭 緑陽中学校英語教諭 堂坂 桃
ALT ニコール・ロバートソン, リサ・パスス
派遣OB 櫻井孝之 成田美登利 西村佳奈子 滝谷幸子 佐藤雅一
山田奈央子 黒須博之 安居綾香
平成20年度派遣 幌別中学校長 佐藤 務 鷲別中学校教諭 西村 靖
登別デンマーク協会

《 事後研修 》 報告書作成 (8月31日 ~ 9月14日 計2回)

研修会日程表

月日	曜	時 間	会 場	内 容	担 当 者
6/30	月	18:00～18:30	市民会館 小会議室	結団式	企画グループ
		18:30～19:30		第1回保護者説明会	
7/4	日	10:30～12:00	市民会館 視聴覚室	事前研修 派遣OBとの懇談	企画グループ
9	水	16:30～18:00		事前研修 デンマークの概要 役割分担	
20	火	16:30～18:00		事前研修 英会話・手紙の書き方	派遣団引率者
26	月	16:30～18:00		事前研修 英会話・アトラクション練習	
28	水	09:30～12:00		事前研修 英会話・アトラクションの練習	
8/3	火	09:30～12:00		事前研修 英会話・アトラクションの練習	
4	水	09:30～12:00		事前研修 英会話・アトラクションの練習	
6	金	09:30～12:00		事前研修 英会話・アトラクションの練習	
9	日	09:30～11:30		事前研修 最終打ち合わせ・総練習	
11	月	09:30～13:00		市民会館 調理室	事前研修 デンマーク料理を作ろう
13	金	10:00～10:30	市役所 市長応接室	出発あいさつ	企画グループ
13	金	18:00～19:00	市役所 第2委員会室	第2回保護者説明会	
16	月	出 発			
22	日	帰 国			
24	火	16:30～17:00	市役所 市長応接室	帰国報告	事務局
31	火	16:30～18:00	市民会館 視聴覚室	事後研修 感想文・紀行文作成	派遣団引率者
9/14	火	16:30～18:00		事後研修 感想文・紀行文作成	

■ 2010年度派遣団&ホストファミリー・リスト

	氏 名	名前・性別・年齢・住所	家 族
団長	鷺別中学校校長 勝 洋一 KATSU YOICHI TK2245324	ライラ&クヌー・クヌセン Laila and Knud Dahl Knudsen. 【住所】 Degnemarken 15, 5750 Ringe, Denmark 【email】	夫: Knud(クヌー)40代後半 妻: Laila(ライラ)40代後半 長女: Liv(リブ)18歳 次女: Sidsel(シーセル)16歳
引率 教諭	緑陽中学校教諭 堂坂 桃 DOSAKA MOMO TG3056819	スザンネ&イエスパー・モーゼホルム Susanne and Jesper Mose Holm Gestelevvej 28, 5750 Ringe, Denmark 【住所】	夫: 妻:
団員	登別中学校 横山 凌太 YOKOYAMA RYOTA MS6591479	ヨナス・バケゴー・スタクリン Jonas Bakkegaard Starklint (男子13歳) 【住所】 Holmehøjvej 24, 5750 Ringe, Denmark 【email】	母: Katrina カリナ 父: Ole オレ 妹: Caroline10歳 カリーネ 妹: Miller7歳 ミル
団員	幌別中学校 新井 優香 ARAI YUKA MS6590881	ニコレーネ・アイラル Nicoline Ayral (女子13歳) 【住所】 Kildevangen 20, 5750 Ringe, Denmark 【email】	母: Susanne スザンネ 父: Xavier ビア 弟: Victor 8歳 ヴィクター
団員	西陵中学校 佐藤 啓陸 SATO HIROMICHI MS6590882	クリスチャン・エレゴ・スクーテ Christian Ellegaard Skytte (男子13歳) 【住所】 Odensevej 27B, , 5750 Ringe, Denmark 【email】	父: Claus クラス 妹: Anna9歳 アンナ
団員	緑陽中学校 佐藤 隼己 SATO TOSHIKI MS6590728	マヤ・フステッド・サーンスン Maja Husted Sorensen (女子13歳) 【住所】 Boltinggardvej 22, 5750 Ringe, Denmark 【email】	母: Susanne スザンネ 父: Thyge トゥーゲ 妹: Karla6歳 カラ 弟: Ole 5歳 オレ
団員	鷺別中学校 山田 涼佳 YAMADA SUZUKA MS6590497	エマ・リーセ・エアリクセン Emma Rise Eriksen (女子13歳) 【住所】 Jyllandsgyden 3, 5750 Ringe, Denmark 【email】	母: Ida イダ 父: Anders アンデルス 兄: Andreas14歳 アンドラス
団員	北海道登別 明日中等教育学校 松田 綾希子 MATSUDA AKIKO MS6438071	リネ・バーフォー Line Barfod (女子13歳) 【住所】 Palleshavevej 11, 5750 Ringe, Denmark 【email】	母: Susanne スザンネ 父: Jens イェン 兄: Rasmus17歳 ラスマス 兄: Morten16歳 モーテン

派遣日程表

《 1日目 》 8月16日(月)

時間	移動手段	スケジュール
05:15		市役所裏玄関に集合。
05:30	市バス	新千歳空港へ。
06:40		新千歳空港到着。出国手続きを済ませる。
07:45	NH(全日空)2152	成田国際空港へ。
09:15		成田国際空港到着。
11:35	SK(スカンジ	目的地のコペンハーゲン(カストラップ空港)へ。(機内で昼食)
16:05	ナビア航空)984	カストラップ空港到着。
17:44	列車	カストラップ空港駅から、コペンハーゲン中央駅へ。
17:57	徒歩	コペンハーゲン中央駅から、アブサロン・ホテルへ。

《 2日目 》 8月17日(火)

時間	移動手段	スケジュール
08:00	徒歩	ホテルで朝食後、コペンハーゲン駅へ。
08:10		コペンハーゲン駅到着。
08:30	列車	ヘンリエッテ・ヘアルーク校のあるオーデンセへ。
10:01		オーデンセ駅到着。
10:10	徒歩	出迎いの道子・ペダスンさんの案内でヘンリエッテ・ヘアルーク校へ。
10:20		ヘンリエッテ・ヘアルーク校到着。
10:30 ~ 13:00		同校で交流(昼食有り)。
15:35	列車	オーデンセ駅で道子・ペダスンさんとお別れし、リングへ。
15:50		リング駅到着。ホスト・ファミリーと対面し、それぞれの家庭へ。

《 3日目 》 8月18日(水)

時間	移動手段	スケジュール
		リング・フリー校へ。
08:00 ~ 14:00		《全員》同校で、英語・歴史・数学の授業を受ける。
放課後		《全員》リング図書館・老人福祉施設訪問。リングで買い物。

《 4日目 》 8月19日(木)

時間	移動手段	スケジュール
		リング・フリー校へ。朝会終了後、踊りなど発表。
08:00 ~ 14:00		《生徒》同校で、国語（デンマーク語）・体育の授業を受ける。
		《引率者》ファボー・ミッドフュン市役所など訪問。リズィー・サンダーさん同行。
放課後		イーエスコウ城見学。

《 5日目 》 8月20日(金)

時間	移動手段	スケジュール
08:00		リング・フリー校へ。朝会参加。
09:30	バス	リング・フリー校から、レゴランドのあるビルンへ。
11:00		レゴランド到着。
11:00 ~ 14:30		レゴランドで過ごす。
14:30	バス	レゴランド出発。
16:00		リングに戻る。
18:00		リング・フリー校で開催されるフェアウェル・パーティーに参加。生徒・先生・ホストファミリー・等出席。

《 6日目 》 8月21日(土)

時間	移動手段	スケジュール
		それぞれ、ホストファミリー宅からリング駅に向かう。
08:30		リング駅到着。
08:47	列車	ホストファミリーやお世話になった方々に別れを告げ、乗換駅のオーデンセ駅へ。
09:02		オーデンセ駅到着。
09:18	列車	列車を乗り換え、カストラップ空港駅へ。
11:39		カストラップ空港駅到着。出国手続きを済ませ、昼食。
15:45	SK(スカンジナビア航空)675	同空港から、日本（成田国際空港）へ。

《 7日目 》 8月22日(日)

時間	移動手段	スケジュール
09:35		成田国際空港到着。入国手続きを済ませ朝食。
11:00	リムジンバス	同空港から、リムジンバスで羽田空港へ。
12:10		羽田空港到着
14:00	NH（全日空67便）	同空港から、新千歳空港へ。
15:30		新千歳空港到着。
16:00	市バス	新千歳空港から市役所へ。
17:10		市役所到着。

紀 行 文

佐	藤	隼	己	緑陽中学校
新	井	優	香	幌別中学校
松	田	綾	希子	明日中等教育学校
山	田	涼	佳	鷲別中学校
佐	藤	啓	陸	西陵中学校
横	山	凌	太	登別中学校

第1日目：8月16日（月）

緑陽中学校 佐藤隼己

僕たちは午前5時15分に市役所裏玄関に集合し、見送りの方たちの前で、各自デンマークで学びたいことや楽しみにしていることを発表しバスに乗り込み、新千歳空港に向かいました。

バスの中では、デンマークで披露する『Mester Jacob』、『さんぽ』、『I Just Called to Say I Love You』の3つの歌を練習しました。朝早だったので、みんなあまり声は出ていませんでした。その他にデンマーク語の練習などをし、時間はあっという間に過ぎていきました。

午前6時50分、僕たちは新千歳空港に着き、見送りに来てくださった東さんと鈴木さんとはここでお別れし、さっそく搭乗手続きを済ませました。空港では英国での航空機爆破テロ未遂事件をきっかけに機内持ち込み品の検査を強化しています。いろいろとチェックを受けましたが、みんな問題なく手荷物検査を終えました。午前7時45分、いよいよ飛行機が離陸です。みんなすごくテンションが上がっていました。成田空港には約1時間半で着き、飛行機を乗り継いでデンマークへと向かいました。デンマークまでは12時間かかるので、その間は座席のモニターでゲーム、音楽、映画などを楽しみながら、思い思いの時間を過ごしました。現地時間で同日の午後4時5分、遂に僕たちはデンマークに着きました。空港内は多くの人が行き来しており、自分の



コペンハーゲンの建物

スーツケースを取り空港から出るまでに、少し時間がかかりました。空港駅から列車に乗りコペンハーゲン中央駅に向かい、駅からホテルまで徒歩移動とハードなスケジュールでした。

コペンハーゲンは、あいにく雨だったのでレインコートを着て移動しました。デンマークではレインコートより傘なのです。僕たちは、かっぱを着、スーツケースを引きずって歩いていたので、現地の人達の目には、奇妙な集団と写ったかも知れません。移動している途中、セブンイレブンを何件か見ました。日本のセブンイレブンは店の形が統一されていますが、デンマークではカジュアルな店舗や、すこし落ち着いた感じの店舗もあり、これには驚きました。カジュアルな

店に入ってみたら中もカジュアルでした。店員は気さくでレジに並んだとき「コンニチワ」と日本語であいさつをしてくれました。僕は嬉しくて、デンマーク語で「tak / ありがとう」と返事をしました。道中、商店や建物を見て感じたことは、建物の外観は古いように見えますが、どこかしっかりしていて、日本の建物とは違うなぁと感じました。

午後6時15分ホテルに到着しました。部屋は普通でしたが、窓から見える景色はきれいでした。部屋には空のポットが置かれていましたが、水をくむ場所は一階にあり、しかも有料です。僕はのどがカラカラでしたが、自動販売機ではジュースが一本20クローネと高いので買いませんでした。(1クローネは17円なので、20クローネは340円です)

ホテルで少し休憩し、僕たちはチボリ公園へ向かいました。チボリ公園は簡単に言えば、遊園地です。入場料が少々高いのですが、遊具に乗りとても楽しかったので、むしろ安すぎると思いました。まず最初に僕たちは空中ブランコに乗りました。ブランコが景色を一望できるほど高い場所まで上がっていき、その後、回転するというものです。次はジェットコースター。距離は短いものの、スピードは他の乗り物とけた違いです。他には1回転のジェットコースターやかなり速いメリーゴーランド、フリーフォール、ゴーカーなど遊具がありました。とても速いジェットコースターに6才くらいの女の子が手を離しながら乗っていたので落ちないかハラハラしていました。チボリ公園で、1番楽しかったのは凌太君と一緒にゴーカーに乗ったことです。ゴーカーといってもかなりのスピードが出るのでスリルがあります。みんなでぶつかり合いをするのですが、僕は、なかなかうまく運転ができず、ぶつけられてばかりでした。そして午後10時にチボリ公園が閉園したので、みんな歩いてホテルへ戻りました。



みんな疲れているせいか、午後11時30分頃には就寝しました。僕は、かなり疲れていたため、夢は見ませんでした。

第2日目：8月17日（火）

幌別中学校 新井優香

いざリングへ

私たち女子は午前7時25分ごろ、予定の時間より大幅に遅れて起床しました。急いで着替えを済ませ、ホテル内のレストランへ行きました。バイキング形式の朝食は、パン、チーズ、デザートなどがありましたが、10分くらいで食べ終え、部屋に戻りその日の準備を整え、ロビーに集まりました。

午前8時にホテルを出発。この日は雨が降っていたのでレインコートを着て、重たい荷物を持ち駅まで15分くらい歩きました。午前8時30分発の列車に乗りオーデンセに向かいました。列車は指定席でしたが、席をなかなか見つけることができませんでした。オーデンセ駅には、午前11時頃到着し、出迎えてくれたガイドの道子・ペダスンさんと合流しました。



オーデンセでは、町並みを見学しながら、ヘンリーエッテ・ヘアルーク校まで歩きました。ヘンリーエッテ・ヘアルーク校では、学校内を見学しました。天井から人形の下半身が出ていたり、肖像画が壁に逆さまに飾ってある部屋もあり大変ユニークだと思いました。肖像画を逆さまにしている理由は、描かれている肖像画が怒っていて怖いから、生徒が部屋に入ったときに驚かないように、との配慮からです。このように、日本とは違うところが本当に面白いと思います。

その後、部屋を移動し、この学校の生徒と交流しました。まず、生徒たちがとてもきれいな声で歌を披露してくれました。日本の生徒の歌声とは違うと思いました。次に私たちが、事前研修で練習した「Happiness」と鬼踊りを披露しました。「Happiness」は生徒と一緒に手を叩いてくれました。また、鬼踊りは、生徒たちも気に入ってくれ、とてもノリノリでした。その後、生徒たちに折り紙を教えました。私はくらげと鶴の折り方を教えました。私が手本を見せると、生徒達も私のやっている姿を真剣に見て、私についてきてくれて、とてもやりがいがありました。みんな初めて折ったとは思えないくらい、とても上手にできました。生徒と一緒に食べた昼食には、コーラとパンが出ました。昼食をとりながら、ヘンリーエッテヘアルーク校の校長先生が、生徒と私たちに簡単な質問をしました。昼食後、おみやげを渡



し、写真を撮って別れました。



道子・ペダセンさんの案内で、アンデルセンの幼少時代の家やアンデルセン博物館、そしてクヌード大聖堂を見学しました。アンデルセンのお父さんは、靴職人でしたが、とても貧しかったようで、家は大変小さかったです。アンデルセン博物館には日本のアンデルセン童話の絵本があり、少しだけ日本が恋しくなりました。クヌード大聖堂には人形が200

体も飾ってあり、とてもすごかったです。

オーデンセ駅で道子・ペダスンさんと別れ、列車に乗りリング駅に行きました。

リング駅では、ホストファミリーの人たちがデンマークの国旗を振りながら、迎えてくれました。ホームでは、ホストファミリーと私たちの対面式が行われました。リズィー・サンダーさんが私の名前を呼ぶと、ホストのニコリーネが前に出てきてくれました。ニコリーネが私に話しかけてきてくれたので、少しだけ緊張が和らぎました。そして、みんながそれぞれのホストファミリーの家に散って行きました。

ニコリーネは、とても親切にしてくれました。

ホストファミリーの家に着くと、さっそくニコリーネが家の中を案内してくれましたが、私の家とは比べ物にならないほど、大きかったです。日本の家ももっと大きかったらなぁと思いました。夕食はフリカデラというデンマークの料理とポテトサラダを食べました。とてもおいしかったです。夕食後、ニコリーネのお父さんに、山田さんのホストファミリーであるエマの家に連れて行ってもらいました。



エマの家では、ニコリーネとエマの友達ミアとヘレも来て、トランプをしました。トランプの遊び方を習い、「フィッシュ」と「カンカン」というゲームでした。日本の遊び方を教えてと言われましたが、言葉が通じないため、教えられなかったので、とても残念でした。みんなで2時間くらい遊んで、ホストファミリーの家に帰り、午後10時30分に寝ました。

第3日目：8月18日（水） 明日中等教育学校 松田綾希子

リンゲフリースクールの登校初日でした。学校に行く一時間前の午前7時頃に、リネの家に一緒にステイしてくれているリネの親友ベネディクトの家に行きました。ベネディクトのお母さんにお土産を渡し、その説明をしたり、ベネディクトの部屋で少し過ごした後、三人で歩いて登校しました。

学校につくと、派遣団のみんながもう来ていて、半日ぶりに日本語を話しとてもほっとしました。午前8時過ぎから音楽室のようなホールで朝会がありました。先生のお話の後、デンマーク語の歌と日本語で「さくらさくら」を歌ってもらいました。

教室に戻り、名前の紹介の後、リネやベネディクトに学校の中を紹介してもらいました。体育館や、職員室、美術室などいろいろな教室があり、建物もいくつかに分かれていることに驚きました。また、授業中の小学生の教室にもお邪魔して先生にあいさつをしました。

その後、午前8時40分頃から授業が始まりました。最初は英語で、動物の名前を当てるゲームをしました。2時間目は歴史の授業でした。全部デンマーク語だったので、ベネディクトが「ヒトラー知ってる?…」と英語で説明してくれたのですが内容はよくわかりませんでした。たぶん、歴史上の出来事が書かれたカードを年代順に並べるというものではないかと思います。午前9時50分頃に授業が終わると、作ってきたお弁当を食べました。日本では12時くらいに食べるのが普通なので少し不思議な感じになりました。30分の休み時間が終わり、3時間目は数学でした。黒板に書かれた寸法通りに紙を切り、糸を通して立方体を作りました。数字は世界共通なのでこの授業はわかりやすかったです。4時間目はドイツ語でした。初めは数字の読み方を習い、1～10までを使ったゲームをしました。午前11時50分に授業が終わるとまた30分ぐらいの長い休憩でした。私がトイレに行っている間にリネとベネディクトがどこかに行ってしまったので、山田さんや新井さん、クラスの人たちと、フットボールのゲーム機（室内）で遊び



リンゲフリースクールの外観



授業を受けた教室



図書館の様子

ました。5時間目も再びドイツ語の授業で、一人一人、英語で自己紹介のようなことをしただけで終わってしまいました。

この授業が終わると、一旦リネたちと別れてマリアンヌさんの引率で午後1時20分頃、学校の近くにある図書館に行きました。図書館の中はとてもきれいで、特に子供の本のスペースには遊ぶ所や自由に着ることができるドレスなどの衣装があるなど、ずいぶん日本と違っていました。また、「ナルト」や「コナン」など、日本の漫画もたくさん置いてあり、この本で日本語を勉強する人もいます。2階は多目的で使用できるスペースになっていて、コンサートや会議をすることもできるそうです。



デンマーク語でアンデルセン童話を読む(?)勝先生

30分ほど図書館を見学した後、短い時間でしたが近くのスーパーマーケットに行き、飲み物やお菓子などを各自で購入しました。

買い物が終わり、マリアンヌさんの車でスーパーマーケットから2分ほどのところにある老人ホームに行きました(午後2時20分頃到着)。ジュースをいただいた後に私たちが歌や踊りを披露しました。



とてもきれいな老人施設

この後、市役所に行く先生方と別れて、山田さん、私と、そのホストファミリーたちとでリングエの中心街に行きました。私の家族や友達へのおみやげを買いました。おもちゃ屋さんやキッチン雑貨の店、再びスーパーマーケットなどいろいろな店を回りました。途中、かわいいカフェでとても甘いパンやピザを買って外にあるテーブルでみんなで食べました。ここで、山田さん達が帰りました。私たちも、少し待ったあと先ほどとは違うスーパーマーケットでリネのお父さんと合流し家に帰りました。

家につき、リネ、ベネディクトと「フィッシュ」というトランプゲームをし、午後7時頃夕食をいただきました。事前研修の調理実習でも作ったフリカデーラがありました。

シャワーを浴びた後、二人が好きだという歌手の歌を聞かせてもらいました。また、「私たちに何か質問はない?」と聞かれたので、お父さんのお仕事や正月についてなど、リネのお母さんも加わり色々な話をすることができました。

この日は、色々な場所に行くことができとても充実していて楽しかったです。ホストファミリーやそのお家、英語を使うことにもだいが慣れることができた1日でした。

第4日目：8月19日（木）

鷲別中学校 山田涼佳

この日、登校が10時だったので8時に起床しました。日本では登校時間が毎日同じですが、リングフリー校は、8時5分に登校する日と、10時に登校する日がありました。お母さんは昼食にサンドイッチを作り、りんご、ビスケット、レンジジュースも持たせてくれました。学校までお母さんが車で送ってくれました。

私が学校に着いたときは、もう、ほとんどの人が登校していました。10時15分から1時間目の国語の授業が始まりました。日本で国語は日本語を勉強するように、デンマークではデンマーク語を勉強しますが、私たちのために配慮してくれ、ノート作りということも勉強とは思えない授業でした。日本でもこのような授業をしてくれれば楽しいのにと思いました。ノート作りは、ノートにチラシや雑誌を切り取って貼りました。他には、皆



日本語が珍しいようで私たちは、「日本語であなたの名前を書いて」と言われたり、クラスの子に「Write my name in Japanese (私の名前を日本語で書いて)」と言われました。私たちもクラスの子に名前を書いてとお願いして、メモ帳に名前を書いてもらいました。11時30分まで授業をし、昼食をとりました。前日の昼食は10時過ぎでしたが、この日は日本に比べて標準的な時間でした。

リングフリー校の生徒と一緒に その後にクラスメイトと外で先生に写真を撮ってもらいました。とても日差しが強かったので目を開けるのが大変で顔に手をかざしている人もいました。

12時から、体育の授業でした。最初、体育館に行ったのでバスケットボールでもやるのかなと思っていましたが、学校の周りを歩くというだけでした。でもいつもは、走るそうです。私は、松田さんとエマとミアの4人で歩きました。歩きながら日本語を教えたりデンマーク語を教わったりしました。Yesはデンマーク語で「ヤ」って言うけれど日本語では何て言うのと聞かれたり、数の数え方を教えあいました。それから30分ほどみんなでサッカーをしました。デンマークでは、ほとんどの人がサッカーをやっていて女の子もとても上手でした。

午後2時30分頃からグループに別れて先生達の車でイーエスコウ城に行きました。庭園がとても広くて、お城も大きかったです。マリンプークのモデルになった建物で、少しは違うかなと思っていましたが、まったく同じでした。外見がとってもきれいなので中も同じようにとても素晴らしいのではないかと思いましたが、やや古めかしかったです。二階は、とても広くて虎の毛皮があったり、鹿や豚などの顔が飾ってありました。部屋の見取り図があり、朝、昼、晩の食事をする部屋が違うと描いてありました。最上階には、日

本を含む、いろいろな国のおもちゃが飾ってありました。デンマークのおもちゃは、レゴも飾ってました。同じ階に子供の人形が寝かせてありました。『クリスマスの夜にこの人形を動かすと城が沈む』という言い伝えがあります。今はクリスマスではないので大丈夫と思いましたが、私は人形を動かす勇氣はありませんでした。お城から見る景色は、とてもきれいでした。その後、迷路に入って遊びました。最初は、簡単そうと思いましたが、意外に難しく、クラスメイトの男子に案内してもらいゴールすることができました。庭園には、消防車や救急車、バイクがたくさん並んでいる所がありました。救急車はアメリカ製で、大変古い救急車は、救急車というよりはまるで高級車のようでした。バイクは、SUZUKI や YAMAHA など日本製の物もありました。イーエスコウ城をクラスの子と一緒に見学している間、たくさん話をしたり、イーエスコウ城について色々教えてもらうことが出来ました。先生に買ってもらった



本物のイーエスコウ城

フライドポテトは、3種類のソースを付けて食べることができ、とてもおいしかったです。



アメリカ製の救急車

イーエスコウ城からリングエの町まで戻り、家に帰ってからエマ、お母さん、ヘレとアイスを食べに行きました。私が食べたアイスは、コーンがとても大きく中には、すっばいりんご味のアイスがびっしり詰めてあり、上にはガムシロップが乗っていたので、とても甘ったるかったです。でも、完食できて嬉しかったです。帰宅したのは午後9時頃で、登別の友達に買ったお土産をお母さん達

に見せました。私もエマも疲れていたの午後10時に寝ました。

第5日目：8月20日（金）

西陵中学校 佐藤啓陸

今日は、デンマークに行く前からとても楽しみにしていたレゴランドに行く日なので、朝はいつもより早く目が覚めました。でも僕が起きた時には、ホストのクリスチャンはすでに起きていて、二人分のお弁当を作ってくれていました。お弁当は基本的にはサンドイッチで、日本のパンより固く黒いパンにハムやチーズをはさみ、紙に包んで持っていくというものでした。毎日同じお弁当でしたが最後だと思うと少し悲しかったです。



レゴランドの入場口

学校へ着くと多目的室で、デンマーク語のメスターヤーコブ、嵐のHappiness、「となりのととろ」のさんぼ、登別温泉の鬼踊りを発表しました。ミスターヤーコブを歌った時は、リングフリー校の生徒も一緒に歌ってくれ、Happinessの時は、手拍子をしてくれました。また、さんぼや鬼踊りもみんなで一緒に踊ってくれて盛り上がったので、事前研修でたくさん練習して良かったなと思いました。

その後、クラスメイトも一緒にレゴランドへ行きました。レゴランドは、フリー校からバスで1時間30分ほどかかりました。バスの中では「ミスターヤーコブ」などを全員で歌うなどして、とても楽しく過ごせました。

レゴランドには、ミニタウンがあり、そこにあるすべての建物や動物、船、空港などがレゴブロックを使いとても細かく表現されていて、感動しました。一通り見終わると、みんなでジェットコースターにりましたが、スピードがとても速く少し怖かったです。他にも暗闇の中、光をねらう射撃のようなもの、9人乗りのウォータースライダーなどもあり、とても楽しかったです。その後、お土産を買いリングフリー校へ戻りました。

フリー校では、フェアウェルパーティーが始まるまで、日本の鬼ごっこをして遊びました。みんなルールをすぐに覚えてくれ、とても盛り上がりました。フェアウェルパーティーでは、それぞれのホストファミリーが作ったデンマーク料理をたくさん食べました。白米もありましたが形や味が日本の白米とは違いました。でも久しぶりの白米だったので美味しかったです。パーティーが始まる前は、フェアウェルパーティーはどんなパーティーなのかと思っていましたが、子供だけでなく、大人もたくさん来ていました。また、ファボーミッドフュン・登別友好協会のリズィー・サンダー会長も来ていて、登別デンマーク協会の事について熱く語っていましたが、デンマーク語だったので内容がわからず残念でした。

食べ終わってから、ミスターヤーコブ、鷺別中学校の伝統の踊りである青春群舞、鬼踊

りを披露しました。僕は、発表する前に英語で挨拶をしましたが、間違いずに言えるか、正しく意味が伝わるかなどとても不安でしたが、落ち着いて言う事ができました。これらのアトラクションは、朝、レゴランドへ行く前にフリー校で発表したときと同じように、パーティーに参加していた人達が手拍子などで盛り上げてくれたのでとても発表しやすかったです。

パーティーの後、凌太のホストであるヨナスの家にクリスチャンと行き、巨大なトランポリンや、日本の野球に似たスポーツをしました。ヨナスはトランポリンがとても上手で僕は、そんなヨナスが面白くて凌太と笑って見ていました。野球はソフトボールを薄い木の板で打つというとてもシンプルな遊びでしたが、やってみると打つのが意外と難しく、最初は全くバットに当たりませんでした。しかし、慣れると当たるようになり、みんなで楽しく遊ぶ事ができました。

9時頃になったのでクリスチャンと歩いて家に帰りました。デンマークは、日本とは違い日没が遅く8時ころまで明るいので、戸外で子供が遊べるので羨ましいなと思いました。

家へ帰り、ホストファミリーと一緒にテレビを見たり、けん玉をして過ごしました。最後の夜だったのでずっと起きていたい気分でしたが、疲れていたので12時頃に寝ました。明日の朝にはみんなと別れなければならないと思うと、とてもさびしい気持ちでした。



レゴでできた町並み



レゴでできた
アメリカ大統領の顔



レゴでできたキノコたち

第6・7日目：8月21日（土）～22日（日）登別中学校 横山凌太

8月21日最終日、朝起きるとホストファミリーはホームステイ初日と同様に優しく、明るかったです。外に出ると日本にはない空気を肌で感じました。僕はホストファミリーと一緒に車でリング駅へ向かいましたが、車の中では、ほとんど会話はありませんでした。駅に着くと隼己君や啓陸君がすでに到着していました。

見送りに、リングフリー校の友達や、ホストファミリー以外の人もたくさん来てくれました。

駅では、クラスメイトと話したり、写真を撮りました。リングの友達や家族に会うのが、これで最後だと思つと悲しくなりました。リングの人はみんな心が温かいので帰りたくない気持ちでいっぱいでした。



見送りにきてくれた友達

みんなに挨拶をして電車に乗り込み振り返ると、僕のホストのヨナスが泣いていました。その姿を見て僕もつられて泣きそうになりました。オーデンセ駅に向かう電車の中で、もっと積極的にクラスメイトやホストファミリーと話したり遊ぶとよかったと後悔しました。



オーデンセ駅でコペンハーゲン空港行きの列車を待っている間、コンビニでジュースやフランクフルトを買って25クローネ（約425円）ほど使

いましたが、日本の値段に比べて、とても高いと思いました。そうこうしている内に、列車が到着し、コペンハーゲン空港駅に向かいました。空港内では、出国手続きをして、免税品店でチョコレートやチーズなどのお土産を買いました。昼食に150クローネ（約2,550円）を払い寿司を食べましたが、高い値段の割にはそれほどおいしくなかったです。国際空港だけあって、様々な国の人がたくさんいました。自由時間があつという間に終わり、飛行機に乗りコペンハーゲン空港を離陸しました。

機内では、僕と隼己君と啓陸君で電子辞書を使い、漢検二級の読み取りテストをしましたが、難しかったです。僕たちは機内のテレビゲームで、テトリスやDVDなどをしながら11時間という長い飛行時間を楽しんでいました。6時間が過ぎたころ、お腹が空き、のどが乾き、体を動かしたくなりました。機内食は僕の口に合いませんでしたが、

お腹が空いているので贅沢は言わず我慢して全部食べました。退屈になり騒ぎすぎたため、前に座っている人に注意されました。デンマークと日本は7時間の時差があるので、飛行機は22日に成田空港に到着し、僕たちは日本に帰って来ました。

日本に着いたことは嬉しいけど、逆にまだデンマークにいたかったという気持ちの方が



機内にメガネを忘れた人

強くなりました。日本に着いたという嬉しさなのか、啓陸君は機内にメガネを忘れたことに気がつきメガネを取りに行きました。啓陸君が戻ってきて、僕は自分のスーツケースを取りに行きました。隼己君のスーツケース以外は、全てありました。隼己君のスーツケースがなかなか見当たらないので、探していると、それはターンテーブルの上で回り続けていたのです。

トラブルもありましたが、バスで成田空港から羽田空港まで移動しました。羽田空港で昼食にそばを食べましたが、久しぶりに食べる本物の日本食はとても美味しくて、すごく感動しました。

デンマーククローネを日本円に換えました。日本は、デンマークに比べて物価が非常に安いことがわかりました。

羽田空港から新千歳空港へ向かう機内ではポケットモンスターを見ながらいつの間にか寝ていました。デンマークから日本への飛行時間が長かったので、羽田空港から新千歳空港まではとても短く感じました。

新千歳空港からバスで登別に向かいました。バスの中ではデンマークで撮った写真を見せ合い、思い出に浸りました。市役所に着くと、家族や先生が出迎えてくれました。



リングフリー校の友達

僕は帰国のあいさつをすることになっていたのですが、言いたいことがうまくまとまらず、失敗してしまいました。

母と兄弟が迎えに来てくれて挨拶を終え解散しました。

感想文

横山	山井	凌優	太香	登別中学校
新佐	藤啓	陸	己	幌別中学校
佐山	藤隼	涼佳		西陵中学校
山松	田綾	希子		緑陽中学校
				鷲別中学校
				明日中等教育学校

デンマークに行って学んだこと

登別中学校 横山凌太

僕は8月16日から8月22日まで、登別市中学生海外派遣事業の一員として登別市の友好都市であるデンマークのファボー・ミッドフュン市へ行きました。参加しようと思った理由は、日本とデンマークの文化の違いを知り、世界に視野を広げたい、また、二度とない経験になると思ったからです。

テレビなどを見ていると日本では当たり前のことが、外国ではまったく知られていなかったり、反対に、外国では当たり前のことが日本では考えられないことが多くあるように感じていました。僕は、このような違いを実際に肌で感じてみたいと思っていました。また、デンマークは世界で最も幸せな国と言われ、自ら命を絶つ人が多い日本とは正反対の国なので興味を持ちました。また、僕の両親は海外に行ったことがありませんので、この機会を逃すと、海外へは一生行くことができないかも知れないと思い参加することにしました。

事前研修では歌、ダンス、英会話の練習をしたり、デンマークについての紹介などを聞きました。初めは一緒に派遣される中学生と仲良くなれるか不安でしたが、研修の回数を重ねるごとに気持ちが通じ合い、デンマークへ行くことが以前にも増して何倍も楽しくなってきました。僕達が学校で習っている外国語は英語だけなのに、デンマークではデンマーク語を話すと知り、僕は英語を十分に話すことができないのに会話が通じるのか、不安になりました。

デンマークへ着くと初めて見るたくさんの建物に圧倒されましたが、デンマークへ来たような実感はありませんでした。ホテルへ着くとすぐにチボリ公園へ向かいました。

チボリ公園内では想像もしていなかった建物を見ることができ、建築物に興味のある僕にとってはと

ても印象深いものになりました。また、今まで乗ったことがなかった、絶叫マシンやゴーカートにも乗り、短い時間でしたが、存分に楽しむことができました。空中ブランコではコペンハーゲンの景色を一望でき、この時になって、デンマークへ来たのだとやっと実感しました。公園内にいたデンマークの人々は、年齢や性別に関係なく子供のようにはしゃいでいて日本では珍しい光景だと感じました。



チボリ公園入り口



ヘンリー・エッテヘアルーク校の生徒

ホテルの部屋はとても落ち着いた雰囲気、良く眠ることができました。

翌日は、道子・ペタズンさんの案内でヘンリエッテ・ヘアルーク校を訪問し、ダンスや歌を披露しました。たくさん練習を重ねてきたので緊張せずに、楽しく披露することができました。この学校の生徒はみんな明るく、昼休みには男女関係なく一緒にサッカーや鬼ごっこを楽しんでいて、僕も混ざりたい気持ちでいっぱいでした。

僕のホストファミリーは、とても仲が良く、笑顔があふれている家族でした。初めてホスト宅を訪れたときは全く言葉が通じず、心の中では帰りたいという気持ちもありました。しかしホストファミリーは、僕の手振りや身振りを理解してくれたのですごく助かりました。

自己紹介を済ませ、同じ年のヨナスと一緒に日本でも放映されている NARUTO を見ました。ヨナスは、日本語の字幕をつけてくれて、2人で同時に楽しむことができました。

この日、初めて食べたデンマーク料理のほとんどが口に合いました。でも、日本では考えられないような食材の組み合わせがありました。僕が一番驚いたのは、たまねぎのヨーグルトあえです。

始めて見た調理法で、どんな味がするのか不安でしたが、食べてみると意外に美味しかったです。

ヨナスとは、一緒に土産店に行ったりトランポリンをしたり、日に日に絆を深めていきました。ヨナスはトランポリンの上で前宙する技を見せてくれましたが、すごくカッコよく、迫力がありました。僕も実際に同じ技を試してみたところ、勢いが余って膝とあごをぶつけてしまいとても痛かったです。

次の日からは、ヨナスの通うリングフリー校と一緒に登校しました。朝会では、バースデーソングを歌い、誕生日を迎えた生徒を皆で祝いました。僕は、生徒の気持ちがとても温かい学校だと感じました。

この学校は幼稚園児から通える学校なので、遊具など楽しめる設備が整っていました。実際に僕も遊んでみると大変楽しかったので、日本の学校にももっとたくさん楽しめる設備を増やすと、今以上に楽しい学校生活が送れるのではないかと思います。

休み時間には、ヘンリーエッテ・ヘアルーク校と同じように生徒が年齢や性別に関係なく遊んでいて、デンマークの生徒は和気あいあいと生活しているんだなと思いました。



ホストファミリーのヨナス



リングフリー校の仲のいい生徒

また、決められた給食時間がないため、授業中に昼食をとる生徒や、携帯電話を使いな
がら授業を受ける生徒がいて驚きました。日本でこのようなことをすると、必ずと言って
よいほど注意されますが、デンマークでは当たり前のように、授業をしてくれる先生に失
礼にあたるのではないかと思いました。

学校の近くにサッカー場や陸上競技場、湖があり、放課後には、多くの生徒が、クラブ
活動をしたり遊んでいました。

僕は今回初めて外国へ行きました。想像していなかったこともたくさんありましたが、
デンマークの人は自由で日本以上に温かい人が多いと思いました。今の日本は科学の進歩
などに頼りすぎて、人間本来の温かさを忘れていないかと感じました。

もっと英話の勉強をしておけば、早い段階で現地の人々と打ち解けられていたかもしれ
ないと思いました。将来、海外へ行く機会があれば、事前に英語をよく勉強してから行こ
うと思います。

僕を受け入れてくれたホストファミリー、サポートしてくれた先生方、家族のおかげで
貴重な経験ができました。この経験を今後の生活に生かしていきたいと思います。

I enjoyed in Denmark!

幌別中学校 新井優香

私は、デンマークに行くことができとても良かったと思っています。日本とは本当に違うことが多く、驚きと興奮の連続でした。まず、コペンハーゲンに到着後、ホテルに荷物を置きチボリ公園へ向かいました。チボリ公園は遊園地のようで、高いところが苦手な私は、あまり楽しめませんでした。

次の日、バイク形式の朝食は、パンやデザートなどがあり、とてもおいしかったです。その後、列車でオーデンセに行き、駅でガイドの道子・ペダスンさんと合流し、ヘンリーエッテ・ヘルルク校へ行きました。学校内の見学をしましたが、日本と違うところがたくさんありました。絵が逆さまに飾られている部屋があったり、天井から作りものの人間の下半身や標識や楽器などが吊るされている部屋もあり、日本ではとても考えられないことがいろいろとありました。 逆さまになってる絵



見学が終了後、生徒たちと歌や踊りを発表しあいました。

日本人の歌声とは違い生徒たちの歌声はとてもきれいで、いいなと思いました。私たちが披露した踊りを生徒たちが、とても楽しんでくれた様子で良かったです。その後6人の生徒と昼食をとりました。最後にみんなで写真を撮って別れました。とても短い時間の交流でしたが、別れるのが少しさびしかったです。



最後に撮った写真

オーデンセ市内の見学を終えて、駅で道子・ペダスンさんと別れ、リングエに向かいました。リングエ駅に列車が着くと、国旗を振りながら私たちを待っていてくれたホストの人たちが列車の窓から見えたので、すごくびっくりしました。それと同時に私は緊張し始めました。私がホストの人と会うと、ホストの人から話しかけてくれました。あいさつ程度でしたが、それがきっかけで少し緊張がほぐれました。ホストと対面してから、みんなそれぞれのホストの家へ向かいました。

私がホストの家に着くと、さっそくニコリーネが家の中を案内してくれましたが、家はとっても広く、私の家よりはるかに大きかったです。早速、私はお土産を家族に渡しました。箸やカップヌードルを持って行ったので、家族はとても興味津々でした。

夕食が終わると、山田さんのホストのエマの家で、ニコリーネとエマの友達のみアとヘレと一緒に遊び、とても楽しかったです。

次の日は、ニコリーネたちが通っているリングエフリー校に行きました。朝会では、フリー校の生徒が日本語とデンマーク語で「さくら」を歌ってくれたので、とても嬉しかったです。

学校が終わってから、リングエの図書館と老人ホームを訪問しました。その後、ニコリー

ネとお母さん、ヘレとミアと私でオーデンセに行きました。この日は、オーデンセにデンマークのプリンセスが来ていたらしく、それを見に連れて行ってくれました。プリンセスが来る場所では、デンマークの国旗が配られていました。国民が本当に自国を愛していることを改めて感じました。日本ではそのようなことは絶対がないので、すごく良いことだと感じました。

プリンセス

次の日の放課後、イーエスコウ城に行きました。イーエスコウ城の中にはく製の動物や家具が展示されていました。また、広い敷地の中にはとても大きな迷路があり、何回も訪れている、ニコリーネたちも迷うほどでした。私は、先にゴールしていたクラスメイトに教えてもらいながら、なんとかゴールできました。時間はかかりましたが、とても楽しかったです。イーエスコウ城の裏側を見ると、本当にマリパークそっくりでした。



次の日は、一番楽しみにしていたレゴランド見学とフェアウェルパーティーが開かれる日です。レゴランドの入り口では、レゴの兵隊が迎えてくれました。これだけでもとても感激しました。中に入ると、レゴでできた人や町並みなど、すべてがレゴで作られており、とてもわくわくしました。日本の大阪城や、金閣寺などもあり、とってもすごかったです。帰りに土産店でニコリーネに熊のぬいぐるみを買ってもらいました！とってもかわいくて、嬉しかったです。一生大事にしようと思います。

レゴランドからフリー校に戻り、参加したフェアウェルパーティーで、私たちが歌と踊りを披露しました。特に鬼踊りは、みんなノリノリで踊ってくれ、楽しいひと時を過ごすことができましたので、別れることを考えると、とても寂しくなりました。

次の日は別れの日。リングのホームステイは、長いようにも感じましたが、実際、とても短い間でした。リング駅に着くと、他の人たちは既に集まっていました。最後に、みんなで写真を撮って、列車に乗りました。列車の窓から、みんなが手を振ってくれているのが見えました。中には泣いている人もいました。みんないい人ばかりで、別れるのがつらかったです。またいつか、リングへ戻って来たいと思いました。



ホストのみなさん

私はこの派遣事業に参加したことで、外国と日本の文化の違いやいろいろなことを学びました。デンマークに「また行きたい」と思うようにもなりました。この派遣のために準備やお世話をしてくれた市役所のみなさん、先生、両親そして現地のホストファミリーやクラスメイトのおかげで、私はデンマークへ行くことができ感謝しています。

もしデンマークに行かなければ、日本という狭い視野の中でしか生活ができなかったと思います。ありがとうございました。

ありがとう デンマーク

西陵中学校 佐藤啓陸

僕はこの海外派遣で、デンマークの文化を学び、またデンマークの方々に日本の文化を伝えたいと思い参加しました。

8月16日の朝、僕たちは飛行機に乗りデンマークへ向かいました。成田空港からコペンハーゲン国際空港までは11時間もかかるので覚悟はしていましたが、想像以上に長くて、とても疲れしました。コペンハーゲンでは、まず、自転車の多さに驚き、きれいな町並みに感動しました。ホテルに荷物を置き、チボリ公園へ向かいました。ジェットコースターなどの乗り物に何度も乗り、夜10時過ぎにホテルへ戻りました。



デンマークの町並み

2日目、道子・ペタスンさんにオーデンセを案内してもらいました。アンデルセン博物館や教会などに行き、改めてデンマークの建物や景色の美しさに感動しました。その後、ホストファミリーの待つリングゲ駅に向かいました。リングゲにつくと雨が降っていましたが、ホストファミリーは傘も差さず、びしょぬれになりながら、日本の国旗を振り待っていてくれました。デンマークの人々は、あまり傘を差さないと聞いていましたが、雨が激しいのに本当に傘を差していなかったのでも驚きました。

僕のホストファミリーは同じ年のクリスチャンとお父さんのクラウスの二人でした。初めて会った時はとても優しくそうな人達だとは思いましたが、家へ着くとやはり緊張してしまい、何を話したり答えたりすればいいのか分からず、日本語を話したい...日本に帰りたい...と少し落ち込んでしまいました。しかし徐々に慣れてくると英語で少しずつ伝えられるようになりほっとしました。お土産を渡すと、最初は不思議そうに見ていましたが一つ一つ説明すると、とても喜んでくれました。お土産のひとつの草履は、Lサイズを買って行きましたが、クリスチャンもクラウスも足が大きくて草履から、かかとがはみ出してしまいみんなで大笑いしました。クリスチャンは、お土産の中でも特にけん玉が気に入ったようで、毎日学校でも練習していました。

3日目の朝はクリスチャンと登校し、歩きながら積極的に話しかけましたが、うまく会話が続きませんでした。リングゲフリー校に着き、授業が始まると驚くことばかりでした。授業中に携帯を使う人がいたり、早弁をする人もいたり、とても自由な雰囲気でした。学校が終わると、図書館と老人福祉施設を訪問しました。老人福祉施設では踊りと歌を発表しました。施設の方々が歌のときに笑顔になってくれたのでうれしかったです。図書館は、とても広く素晴らしかったです。見学が終わるとホストファミリーのみんなが図書館まで迎えに来てくれ、クリスチャン、ヨナス、マヤ、凌太、隼己、僕の6人でマヤの家に行き、Wiiや卓球などをしました。マヤの家族も親しみやすく、作ってくれたパンやお菓子は、とても美味しかったです。

4日目は授業の後、フリー校のみんなと登別マリパークのモデルとなったイーエスコ

ウ城へ行きました。城の中はとても豪華で動物の剥製や世界中のおもちゃなどがたくさん展示してありました。城の外には植物を植えて作った巨大迷路があり入って行きましたが、途中何回も迷い楽しかったです。イーエスコウ城の見学を終えてから、ヤルダールの家に行きましたが、とても大きな家で驚きました。家の周りが森で、大木がたくさんあり、その高い枝からブランコが下がっていて、まるでハイジが遊んでいそでした。こんなに素晴らしい大自然の中に家があり、羨ましいと思いました。

5日目はまず朝会から始まり、日本で練習した歌や踊りを披露しました。フリー校の生徒たちはノリがよく手拍子を取り、笑顔で見てくれたので緊張することなく披露できました。中でも、鬼踊りが一番盛り上がりました。その後フリー校の生徒達とレゴランドへ行きました。レゴブロックで出来た動物や、世界の有名な建造物がとても細かく作られていて感動しました。レゴランドについては、日本でインターネットを使い調べていましたが、やはり生で見ると迫力が違いました。ジェットコースターなどの遊具に乗り、買い物をしてリングフリー校へ戻りました。この日の夕方、フェアウェルパーティーがリングフリー校で行われました。このパーティーには、たくさんの料理が持ち寄られ、中には白米もありました。久しぶりに白米を食べることができ嬉しかったです。食事のあとに披露したアトラクションでは、やはり鬼踊りが一番盛り上がりました。パーティーが終わり、クリスチャンの家に帰ってから、テレビを観たり、けん玉をして遅くまで起きていましたが、もう明日帰るのだと思うと淋しかったです。

そして最終日の朝、リング駅に着くとフリー校のクラスメートも集まっており、みんなで写真を撮りました。そうしているうちに僕たちが乗る汽車が到着し、別れ際にヨナスが泣いていたのを見ると、まだ帰りたくない...と思いました。汽車が走り出してもギリギリまで追いかけてくれた人もいて、優しさが充分伝わり感動しました。汽車の中で、優しかったリングの人々のことを思い出すと、またリングへ来たいなという気持ちになりました。



僕はこの海外派遣で一番感じたことは英語の重要性です。デンマークの仲間たちと今までは外国の人と話したことがあまりありませんでした。今回、デンマークの家庭にたった一人でホームステイをし、全く日本語が通じない事によって、英語を使わなければ意思疎通ができないことが良く分かりました。精一杯自分の知っている文法や単語を使い、何とかコミュニケーションをとりましたが、今の英語力では不十分と実感しました。

最後になりましたが、このような貴重な経験をさせてくださった海外派遣事業の関係者の皆様、ホストファミリーや優しくしてくれた現地のクラスメートに心から感謝しています。今回学んだいろいろなことを今後の生活に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

「目で見、肌で感じたこと」 緑陽中学校 佐藤隼己

8月16日から8月22日の6日間、僕たち海外派遣団はデンマークに行ってきました。

派遣団員は、団長～勝 洋一 鷲別中学校校長、引率～堂坂 桃先生、団員～新井 優香、山田 涼佳、松田 綾希子、横山 凌太、佐藤 啓陸と僕の8人です。啓陸君は以前から知っていたのですが、まさか一緒にデンマークに行くことになるとは思いませんでした。

派遣にあたり行われた事前研修では、歌や踊りの練習をしたり打ち合わせをしました。最初はみんなの心がバラバラでしたが、「デンマークに行き、異文化を学ぶ!」という共通の目標を持っていたので、次第に心がひとつになりました。

コペンハーゲンに着いた時は「自転車が多いなあー」と思いました。勿論、車を運転している人もいますが、とにかく自転車が多かったです。歩いているのは僕たちくらいで、歩きながら気がついたことは、信号が変わる時間が異常に早いことです。日本では2分くらいで信号が変わりますが、デンマークでは15秒ほどで変わり戸惑いましたが、信号が



コペンハーゲンの街中の風景

変わるまでの残り時間が信号機の下に表示されており、確認することができます。最初は不便だと思いましたが、その考えはすぐに一変しました。なぜなら短時間で変わる方が効率が良いし、なによりも事故が少なくなるからです。すぐに変わるので無理に道路を渡る人も出ないと思います。建物はレトロな

感じでしたが、言葉でうまく表わすことはできませんが、日本で言う古いという意味ではありません。近代的なビルはなく、ゆっくりとした素敵な街でした。同じ会社が経営している商店でも、建物の色・形はそれぞれで見ていて飽きません。店員さんも優しい人ばかりで、理解できるまで身ぶり手ぶりを交えて親切に教えてくれます。

1日目の夜に行ったチボリ公園は、忘れられないくらい印象深く、デンマークの思い出ベスト3に入るほどです。公園には、遊園地のようにジェットコースターなどの遊具があります。ここでの一番の思い出は凌太君と一緒に乗ったゴーカートです。とにかく速くて、みんなでぶつかりあいです。その中におじいちゃんが一人乗っていて、突撃をかわしながら、自分からも突撃をしている光景を見て、とても感心しました。僕と凌太君は、ゴーカートをうまく動かせません。僕が戸惑っていると凌太君が笑顔で突撃してきました。凌太君は早くも乗りこなしていたのです。コース内は、みんな遠慮のないぶつかり合いの嵐でしたが、とても楽しかったです。

2日目に僕たちは、ようやくホストファミリーと対面しました。雨の中、レインコートも着ないで濡れで待っていてくれた人もいて感動しました。僕もホストの方に暖かく迎えられて、ホストの家へ向かいました。その家は、大変大きくて僕の家約4倍はあり

そうです。やっぱり日本とは違うなあとひしひしと感じました。その日、おみやげを渡したのですが、キティちゃんのシールがとても喜ばれました。その後、ホストファーザーも仕事から帰ってきてあいさつをしました。筋肉質でたくましい体つきであったことを今でも覚えています。

3日目、ホストのマヤと一緒にリングフリー校に行き、朝会に参加し練習してきた踊りや歌を披露しました。中でも、踊りの「嵐・Happiness」が特に盛り上がり、踊っている僕たちも気持ちが良かったです。放課後、マヤの家に凌太と啓陸、その2人のホストのヨナスとクリスチャンが来てみんなでゲームや、卓球をして過ごしました。とてもとても楽しかったです。

4日目はイーエスコウ城へ行きました。実は、登別マリンパークニクスはこのイーエスコウ城をコピーしたものです。僕たちはその本物を見てきました。イーエスコウ城見学、これがデンマークの思い出ベスト2です。城内には歴史がある家具や動物の剥製などが展示されています。最上階の屋根裏には、小さな人形が置かれていました。



イーエスコウ城の広大な庭には、迷路やアスレチック、ドラキ ャ館があり、フリー校の生徒達とした鬼ごっこは一生の思い出です。

ベスト3、2そして、じゃあベスト1は何か、と聞かると迷うことなく5日目に行ったレゴランドの見学だと答えます。建物がレゴ(ブロック)で出来ており、大きいので圧倒されました。レゴランドの中は3割くらいが飲食店で、残りは全部遊具です。とにかくいろいろな種類の遊具がありましたが、一番覚えているのが凌太、啓陸それに僕で乗ったトロッコ型のジェットコースターです。坂ですごいスピードがでて、お腹が痛かったです。その坂に自動的に写真を撮るカメラが設置されていて、3人で写真を見に行ったら3人もすごい形相でした。その他には、レゴランドの中央にあるプールで流れる舟に乗っている海賊が水鉄砲を撃ってくるので、こちら水鉄砲で対抗するアトラクションがありました。しかし海賊の水鉄砲の方が飛距離・威力がはるかに上で、海賊の1人である高齢のおじいちゃんに撃たれっぱなしでした。このレゴランド見学がリングフリー校の生徒達との最後の交流で、次の日にはもう日本へ帰らなければなりませんでした。

最後の夜はホストのマヤと一緒にトランポリンで遊びました。マヤがバックテンやその他の大技をトランポリンで披露してくれたので、空いた口が塞がらなかったです。僕も出来そうな気がしてきて、やってみたら見事に失敗しました。そのあとマヤからトランポリンのコツを1から教えられたのですが、その1というのは「トランポリンを恐がらないこと」でした。ちょっと惨めでした。

リングに滞在中、マヤがずっと僕の世話をしてくれたので、駅で別れる時はすごく辛か

ったです。マヤの顔を見たら泣きそうだったので、僕は、まっすぐ見ることはできませんでした。その後、電車でコペンハーゲンへ向かい、飛行機に乗り、日本に帰国しました。

今回、海外派遣に参加して「たと言語が違って、お互いに伝え合おうとすることは素晴らしいことだ」と強く感じました。また「日本とはさまざまな面で違うところがあったけれど、デンマークの方が楽しくて、安全だなあ」という感じを受けました。デンマークへ行ったことで世界観が変わったような気がしますし同時に「自分は小さいところに閉じこもっていたのだなあ」と思い知らされました。

もしこの海外派遣がなければ、僕は、デンマークに行くことがなかっただろうし、今までどおりに自分の小さい世界に閉じこもっていたでしょう。そう考えると今回の経験の素晴らしさを痛感しました。

僕は派遣団員として生徒の代表でデンマークに行ったので、今度はみんなにこの貴重な体験を伝える番です。1人でも多くの人に日本とデンマークの文化の違いを知ってほしいです。その異なった文化を自分の目で見て、体験できたのは幸せなことです。この体験をこれからの人生に役立てようと思います。



ホストファミリーとの写真



別れの場リング駅にて

最高の7日間

鷺別中学校 山田涼佳

私がこの中学生海外派遣に応募した理由は、デンマークの福祉と文化の違いを学びたかったからです。選ばれた時は、嬉しいというより驚きました。親が同行しない旅行はとても不安でしたが、皆と話していると不安も無くなり逆に楽しかったです。



チボリ公園の建物

でも私は絶叫マシンが大好きなのでとても楽しかったです。どれも激しい乗り物で、かなり叫んだのでストレ発散になりました。ホテルに戻って早く寝ようと思いましたが、寝たのは12時過ぎになってしまいました。



ヘンリエッターヘアルーク校の生徒と

じめも無く日本とは、違うなと思いました。一番心に残っているのは、一緒に折り紙を折ったことです。「鶴を作ります」と言っても鶴が英語で通じなくて大変でした。でも、言葉が通じなくても自分で折ってみせたり、手伝ってあげたりして折り紙でいろんな物を作ることが出来ました。喜んでもらえてとても楽しかったです。夕方にホストファミリーのエマと家族に会いました。外国で一週間もホームステイするのは不安でしたが、ホストはとても優しくて安心しました。この夜は、新井さんとホストファミリーが来て、トランプをして遊びました。遊び方を教えてもらいましたが、理解するのにとても苦労しました。新井さんと私は、ババ抜きを教えようと思いましたが、伝わらなかったです。

3日目は、エマと一緒にリングフリー校にバスで登校しました。エマのクラスと一緒に

歴史とドイツ語を勉強しました。歴史の時、多分「この人知ってる？」と聞かれたと思いますが、まったく知らない人でした。英語も良くわからないのに、ドイツ語の授業は、まったく理解できませんでした。エマに学校の中を案内してもらいました。校舎は大きく、敷地もかなり広がったです。放課後、図書館と老人ホームを訪問し、老人ホームで踊り等を披露しました。始めは、入所している人たちが喜んでくれるかどうか心配でしたが、手拍子をしてくれて嬉しかったです。

4日目は、国語と体育の授業でした。国語は、ノートの表紙にチラシの切り抜きを貼るノート作りでした。授業とはとても思えない楽な授業でした。体育も学校の周りを歩くだ



体育の時に撮った写真

おいしくて全部食べてしまいました。

けで、日本のようにキッチリはしていませんでした。授業が終わってから、イーエスコウ城に行きました。マリパークのモデルになった建物で外見が全く同じでしたが、庭はイーエスコウ城の方がとっても綺麗でした。城内には、高価に見える家具がたくさんありました。庭内には消防車や YAMAHA, SUZUKI などバイクの展示室がありました。バイクは、日本製の物ばかりでした。アイスを買いましたが、かなり大きくて食べきれないかと思いましたが、とても



レゴで作った大阪城

5日目は、朝からレゴランドに行きました。レゴで遊ぶのかと思いましたが、ジェットコースターなどの遊具がたくさんあり、チボリ公園で遊んだように、また思いっきり遊べると思いました。レゴで作った自由の女神や、日本の物では、大阪城、それに東京の町並みが再現されていました。動物もレゴで作ったとは思えないくらい本物そっくりでした。夜に、フリー校でフェアウェルパーティーがありました。お母さん達が作り持ち寄った料理はとてもおいしかったです。

フェアウェルパーティーで、私たちは歌や踊りを披露しました。鬼踊りは参加者も一緒に踊り、みんなが盛り上がり良かったです。とても素晴らしい一日でした。

リングに滞在中は、最後の日が一番楽しかったです。英語での生活にだんだん慣れて友達もでき、特に、フェアウェルパーティーの準備をしていた時に、クラスの子とたくさん話をしました。さまざまな質問をされましたが、クラスメイトの英語の発音が良すぎて聞き取れず、十分理解はできないものの、一緒に行動をしたことが、楽しかったです。

この派遣で私が知りたかったことは、デンマークの福祉について、そして、文化の違いでした。福祉については、老人ホームに行きましたが話を聞くことが出来ませんでした。私が見た限りでは、施設の中はとても綺麗で設備がきちんと整っていました。また、文化

の違いも知ることができました。たとえば、食文化では毎日、朝はパン、昼もパンを食べます。これは日本ではあり得ないと思いました。日常生活において、いつもは靴を脱いで家に上がるのに、土足で家に上がるときもあって驚かされました。デンマークではたくさんのお話を学べたと思います。またこういう機会があればいろいろな国に行ってみたいと思いました。



ホストファミリーのエマと



別れ際の写真（リング駅）

リングでの4日間

明日中等教育学校 松田綾希子

あっという間に終わってしまったこの7日間。日本とは違う文化に囲まれて、たくさん刺激を受けることができました。特に、リングでの4日間のホームステイについては、深く心に残っています。

デンマークに行くことが決まったとき、うれしいのはもちろんですが、ちょっと不安もありました。もともと、英語は得意ではなく、聞くことと話すことには特に苦手意識が強かったので、自分の今の語学力で、ホストファミリーや交流する人たちと、意思の疎通ができるのだろうかという不安でした。

私たち派遣団が乗った列車がリングの駅に到着した時、かなりの雨が降っていたにもかかわらずホストファミリーの皆さんが日本とデンマークの国旗を振って出迎えてくれました。ホストファミリーと自分たちの名前が紹介され、私はホストであるリネと、私のステイ期間中一緒に家に来てくれることになったリネの友達のベネディクトとあいさつを交わしました。二人とは、日本から手紙とE-mailでやりとりを数回していましたが、顔を見るのは初めてだったので、紹介された時は「本当に中学生？」と思ってしまいました。そのあまりの大人っぽさに圧倒されてかなり緊張気味の私でしたが、「Hi!」と声をかけてくれた二人の笑顔が不安を消してくれました。

リネの家は平屋なのにとっても広くておどろきました。私は車庫を家だと勘違いしてしまいました。家の隣に湖があり、辺り一面が畑で囲まれていて広い土地の中のところどころに民家が建っている周りの風景は、少し北海道に似ている感じがしました。滞在中はリネの部屋を貸してもらいました。日本の中学生と同じように、好きな歌手のポスターが部屋中に貼ってありました。私にも「お気に入りの歌手は?」とか「私たちに質問はない?」などと聞かれましたが、二人に聞きたい事や伝えたいことは山ほどあったのに、それをうまく言葉にできない自分がもどかしかったです。でも、「何を言われているのかさっぱり分からない」という顔をしている私に、根気よく何度も何度も説明してくれて、30分かけてようやく理解できたときに共有できた喜びと安堵感は、忘れられない思い出の一つです。翌日は二人の通うリングフリー



ベネディクトとリネと私



広~い、リネのお家



クラスメイト一同

スクールに行った後、リングゲの中心街に、クラスメイトと山田さんと一緒にショッピングに出かけました。

「誰に買う物のなの?」「何を買いたいの?」という単純な会話の中で、少しずつ相手の言葉が聞き取れるようになってきました。英語オンリーの生活に慣れてきて自分の要望なども辞書の力を借りながら言うことができるようになったことで、英語を話すことの楽しさを感じることができました。完ぺきな英語を話そうと試みるのではなく、たとえ文法がめちゃくちゃでも、とりあえず話し始める勇気を持つことが大切なのだと感じました。この日の夜はリネのお母さんも加わり、日本とデンマークそれぞれのお正月や行事について話して大いに盛り上がり、日本を少しだけ紹介することができました。



堂々たるイーエスコウ城

3日目と4日目に行ったイーエスコウ城やレゴランドでもたわいもない会話が弾み、とても楽しい時間を過ごすことができました。伝えたいという気持ちと、受け取りたいという気持ちが出会えば、なんとかなるものだと思います。

テーマについて

私の研修テーマは「環境先進国デンマークの環境対策について」でした。デンマークでの生活の中に、たくさんの「エコ」を発見することができました。

自転車の使用率がとても高く、たくさんの自転車が駅前に置いてありました。列車内にも自転車を持ったまま乗ることができるスペースがあり、歩道と車道の間にあった自転車専用道路ではかなりのスピードで走っていました。



駅前に置いてあった
たくさんの自転車

高速道路の脇には、いたるところに大きな風力発電機が設置されていました。

リネの家には大きな薪ストーブがありました(山田さんのホストのおうちにもあったそうです)。

デンマークの人たちはこれらのことを「環境のために意識して...」という感じではなく、それが「あたりまえで、ごく普通のこと」として、自然に生活に馴染んでいる様子でした。日本も少し見習うべきだと思いますし、自分も考えさせられました。しかし、コペンハーゲンの道にはいたるところに煙草の吸殻やゴミが落ちていて、結構汚かったのが意外で驚きました。でもそれは、近くに観光施設であるチボリ公園があったせいかもしれません。



ホストファミリー宅の薪ストーブ

この研修で、学んだことやホームステイを通じて得たことを大切に、これからの生活にしっかりと活かしていきたいと思っています。このような貴重な機会を与えていただきました登別市とリングの皆様に心から感謝致します。ありがとうございました。

引率者報告書

鷺別中学校校長 勝 洋 一

緑陽中学校教諭 堂 坂 桃

平成 22 年度登別市中学生海外派遣研修を終えて

登別市中学生海外派遣団
団長 勝 洋 一
(登別市立鷲別中学校長)

【はじめに】

「登別市の次代を担う青少年が、諸外国の生活や異なる文化に接することにより、国際理解を深め、国際社会に対応できる人間性を身に付ける」。これが、海外派遣研修の大きな目的です。この事業では、過去 17 年間で多くの生徒をデンマークに派遣してきました。

今年度は、市内 5 中学校と明日中等教育学校から 1 名ずつ選出された 6 名の生徒と 2 名の引率者で派遣団を構成しました。参加生徒は、この派遣事業の目的である「訪問国の文化や伝統等の学習、ホームステイや学校訪問を通して、異なる文化の理解と広い視野を持つ」を達成するために、10 回の事前研修を実施してきました。その中で、デンマークについての学習、テーマ検討、英会話学習、自己紹介のプレゼンテーション、ホームステイ先への手紙の作成、各施設で披露する歌や踊りの練習などに取り組み、研修を重ねる毎に目的意識と自覚を高めていきました。

8 月 13 日午前 10 時、市役所にて高田副市長に出発のあいさつを行いました。高田副市長からの温かい激励の言葉をいただき、私たちは登別市の代表ではなく、北海道の、いや日本の代表であることを心に刻み、デンマークへ旅立つ心構えを改めて確認しました。



《市役所にて出発のあいさつ》

【研修報告】

大いなる決意を胸に旅立つ

8 月 16 日午前 5 時、市内の各中学校の校長先生、教育委員会の方々、保護者の皆様に見守られながら、派遣生徒一人一人が旅立ちの言葉を述べました。「文化を学べます」「英語で挑戦します」「自覚を持って行ってきます」「楽しんできます」など、団員として参加できることへの感謝の気持ちと決意を



《市役所裏にて旅立ちのあいさつ》

胸に午前5時25分、市役所を後にしました。新千歳空港では、見送りに来てくださった東さん、鈴木さんとお別れもそこに、身体検査を受け、搭乗口へと進みました。

成田に着くと、蒸し暑さに一同「暑い!」。北海道も暑いけれど、それ以上の空気を味わいました。両替をしたり、パスポートチェックが入ったり、そろそろ日常とは違う雰囲気にと、すわー大事!「持ってきたはずのお金がない!」カバンの中を何度も探し、家にも電話をかけたけれど、どこにいったのだ!「んっ、その首からぶら下げているポーチの中身は何かな?」一件落着。SASスカンジナビア航空の搭乗口では、今回の研修に同行する堀井さん(6年前の派遣経験者で、現在は京都の外国語大学の学生)とお会いし、+1=9名の旅がいよいよ始まりました。約11時間の空の旅、2回の食事と1回のおやつを平らげ、映画を観ながらゲームをしながら、そして足や腰や首の痛さに耐えながら、コペンハーゲンのカストラップ空港に到着、デンマークの地に第一歩を印しました。



《デンマーク、記念の第一歩》



《現地時間17:04、日本時間24:04》

ホテルはどこだ?

地図を片手にホテルを目指すが、「どっちが北?南?」道行く人にホテルの場所をたずね、歩いて歩いて、リッチモンドホテルにたどり着きました。午後7時、ホテルから安着の報告をと思い、「ファックス、プリーズ」。フロントの係員が送ってくれた...ようでしたが、こちらに紙をもってきて何やら説明している。私には「ブロークン」という言葉しかわからず、係員のちょっと怒り気味の口調もあり、「壊れたのだ」と悟りました。堂坂先生が助けに来てくれて「別なホテルから送ってくれと言っています」。なるほど。

その後、午後10時までチボリ公園で過ごしました。団員たちは元気に乗り物(ジェットコースターや地上50メートル?まで上がる空中ブランコなど)に乗って、長旅の疲れを癒していました。



《道行く人にホテルを訪ねる一行》



《チボリ公園》

2日目は、何と雨～朝から土砂降りだった

デンマークに来る前に毎日のように天気予報を調べていましたが、30度を超える日々が続いており、半袖をスーツケースに詰めてきました。が、朝起きて外を見ると、路面が濡れている。朝食を取り終えた頃には本格的な雨。「デンマークの人は傘をささないよ」と聞いてはいたものの、全員カッパを着込んでの2日目のスタートとなりました。土砂降りの中をスーツケースを引きずりながら駅まで歩きました。

北海道とさほど変わらぬ風景を眺めながら、10時15分、オーデンセの駅に到着。この日の案内役の道子・ペダセンさんがホームで出迎えてくれました。ところで、これまでのところ、改札口というものが見あたらず、当然切符を切ることもなく一行は、道子さんの後に続いて進んでいきました。

駅からの道すがら、歴史を感じる落ち着いた煉瓦の建物の中を歩き、最初の訪問校ヘンリエッテヘアルーク校に到着です。学校というよりも煉瓦の町並みの一部という佇まい。新学期が始まったばかりということでしたが、子どもたちは元気に過ごしていました。私たちと出会い、あいさつをしたり、微笑んでくれたり、ある子どもが私に「英語が話せるか」とたずねてきたので「ごめんね。あの先生は話せるよ」と堂坂先生を指さすとすかさず走っていき、話しかけていました。この学校は、校長先生所有の私立小中一貫校だと聞きました。「5歳から18歳の子どもが通っています。本校では、子どもたち一人一人の個性を大切に伸ばしています。子どもたち同士もお互いを尊重し合っています。



《校長先生と～背が高い》

す」という校長先生の言葉に経営者としての自信を垣間見ることができました。学校中に飾られた絵画や置物や古いおもちゃなどを見ると博物館のようでもありました。

学校見学の後には、小さなホールでヘアルーク校の12歳組との交流会を持ちました。まずは、ヘアルーク校生徒による歌で幕開け。続いて、派遣団の踊り“ハピネス”と“鬼踊り”を披露。デンマークでの初舞台となりました。“鬼踊り”では、全員が鬼のお面を付け、輪になって踊りました。踊り終えて、次は“折り紙教室”。団員1人に5～6人の生徒が付き、鶴やカエルやウサギなどを「ライクジス」と言いながら必死に教えていました。その後、同世代の生徒と昼食を取り、玄関で記念撮影をして「マンゲタック。ファベル」



ゲストではなくファミリー～ホームステイ始まる

道子さんの案内で『アンデルセンの街』を散策。列車までの時間がなく、足早にアンデルセンが幼少の頃に住んでいた家やアンデルセン記念館など縁の場所を巡り、駅に戻りました。道子さんに別れを告げ、リング行きに列車に乗り込む一行。これから始まるホームステイに緊張感と不安が漂う車内。事前研修の中で鈴木さんから「無口はだめ。何でもいいから話しをすることが大切です」「Nice to meet you.その後自己紹介」「Yes, please. No, thank you. 意思表示をしっかりとすること」などなど、レクチャーを受けてはいたのですが、「どんな家族なんだろう」「自分の英語は通用するのだろうか」様々な期待と不安を抱えながらの17分間。午後3時47分定刻にリングに到着。外を見ると、雨の中、ホームには、日本とデンマークの小旗を振るホストファミリーの方々。笑顔いっぱいのお出迎えに、列車の中での不安がフツと消え、ホッとしたのもつかの間、私も含めて団員たちはそれぞれのファミリーに連れられ、いよいよ



《アンデルセンが育った家》

よホームステイが始まりました。どのファミリーも笑顔で迎えてくれ、とても気さくですぐに打ち解けていたようです。6名それぞれの様子はそれぞれの経験談にて紹介しています。

学校生活、開始！

8月18日(水)から3日間、一行はリングエフリースクールに登校。子どもたちはすでに7年生の教室に入っているよう。職員室では、リズィーサンダーさんの出迎えを受け、すぐにホールに案内され、午前8時5分から朝の集会が始まりました。全校生徒で賛美歌を歌い、2曲目は何と『さくらさくら』。集会後、子どもたちは7年生の教室で授業を受け、私たちは学校見学といろいろな学年の授業参観をしました。午前10時10分からの授業では、堂坂先生が先生になり、デンマークの子どもたちに“登別市”を紹介するコーナーがあり、ホームページを使って、わかりやすく説明していました。

ところで、リングエフリースクールは私立の小中一貫校で、各学年1学級、各学級は20人という少人数制を取っており、小規模校のよさを最大限生かしている、子どもたちも自分の学校に誇りを持ち、とてもGood、と聞きました。町には大きな学校もあり、そこでは先生方はそれなりにたいへんだという話も。個人的には、そういった学校を視察して、先生方の苦労話を聞いてみたかったという思いもありました。

休み時間になれば子どもたちはお弁当を広げたり、お菓子を食べたり、遊んだりしています。また、生活にかかわるきまりもなく、小さなうちからピアスをつけていたり、服装もそれぞれにまかせられ、自由ないで立ちでした。

英語教育に関しては、会話力・思考力・表現力などを小さなうちから身に付けさせるための工夫が随所にあり、学ぶことが多かったと思います。しかし、大切なことは、デンマークと日本、どちらの授業が優れているのかという比較論ではなく、それぞれの国が自国の成り立ち・歴史・文化・自然・価値観などを正しく理解した上で、お互いのよさを取り入れ、子どもたちに適した授業を創り上げていくことだと考えます。



《リングエフリースクールでの授業風景》

この日の午後は、図書館見学と老人ホーム訪問。老人ホームでは、お年寄りを前に歌と踊りを披露。特に、お年寄りと手をつなぎ“さんぽ”を歌う子どもたちの表情はやさしさにあふれ、言葉は通じなくても、手のぬくもりは万国共通だと感じました。



《お年寄りとの交流～手のぬくもりは》

その後、私たちは市役所に行き、ファボー・ミッドフュン市のハンス市長を表敬訪問し、小笠原市長からの親書をお渡ししました。和やかな雰囲気の中で軽食を取りながらの懇談でした。この日まで雨が続けていたのですが、市長から「ソーリー」と言われ、折りたたみの傘をいただいたのには、とても恐縮してしまいました。また、どんなときにも諧謔を忘れない、市長の振る舞いを見習いたいものだと思います。

子どもたちの笑顔も万国共通！

8月19日（木）、この日は午前10時登校。朝一番は3年生の英語の授業を参観。先生は子どもたちの身体を動かしながら、1～10までを覚えさせていました。2コマ目は、0年生の音楽。日本でいうところの幼稚園児の年長さんの学級です。いっしょに手をつなぎ、歩いて踊って、身体は少し疲れたけれど幼子の純な笑顔に心はすっきり晴れ晴れとしました。

昼休み、校庭を見ると、なわ跳び、砂場で穴掘り、卓球、ボールぶつけなどなど、お天道様の下で無邪気に遊ぶ子どもたちの笑顔がここにもあり、この笑顔たちはデンマークであろうと日本であろうと世界中どここの国であろうと同じで、それぞれの国のやり方で子どもたちのよいところや可能性を伸ばすことこそが我々の仕事であることを改めて感じました。



《砂場で遊ぶ子どもたち》

私の顔を見て「ハロー」「こんにちは」と声をかけてくる子どもたちや映画さながらのパフォーマンスを見せてくれる子どもたちに自然に頬がゆるみ、笑顔になり、子どもたちに話しかける自分がいました。

どちらが本物？「こちらが本家本元です」

午後は、イーエスコウ城へ。マリパークにそっくり、ではなくこちらが本家本元。まぶしいお日様に照らされた水に浮かぶ美しい城にしばし目を奪われていました。子どもたちは、城の中を見学したあと、敷地内にある車やオートバイの博物館を見て、さらに遊具で遊んでいました。私も誘われて巨大迷路に挑戦しました。かなり迷いながら、あっちに行ったりこっちにもどったり。でも、子どもたちがやさしくそしてさり気なく教えてくれ、無事ゴールにたどり着きました。



《お城に行く前にみんなでパチリ》



《本家本元のイーエスコウ城》

派遣団 6 名、オンステージ

学校生活最後の日。朝の集会で私から子どもたちと先生方に



《みんなで“さんぽ”しています》



《ONI、ONSEN、KUMA を説明する私》

お礼のあいさつ。ポスターを見せながら登別のキーワード3つを伝授しましたが、通じていたかどうかかなり不安です。ちなみに3つとは『ONI、ONSEN、KUMA』でした。とりあえず最後に「デーバーフュゲリッツ、マンゲタック」そして、いよいよ6名の出番です。この日この時のために必死に練習してきた『あいさつ・ミスターヤーコブ・ハピネス・鬼踊り』さて、そのデキは？ 6人の一生懸命さにデンマークの子どもたちも拍手喝采、最後は鬼踊りを輪になって踊りました。

全部レゴブロック！？みんなでレゴランドへ。

午前9時、7年生といっしょにレゴランドへ。およそ90分のバスの旅。大勢の人々が訪れるテーマパークだと気づきました。そこここにレゴブロックで作られた建物、港、公園、城、列車などがあり驚きながらかつワクワクしながら見入っていました。子どもたちは、乗り物に乗り、食事を取り、買い物をし、いっぱい楽しんだ4時間だった



《サングラスのおじさん、全身レゴブロック》《乗り物にも乗って楽しんで》

異国に響く“鬼踊り”みんなでダンス！

～国境を越え、熱く交流

8月20日午後6時20分。ホストファミリーとのお別れの会、フェアウェルパーティーが催されました。最後の鬼踊りは、全員で「湯気湯気」「流して流して」「つのつの」。ファミリーともすっかり打ち解け、終わりの時間が来ても、別れを惜しみ、握手と抱擁の嵐、胸を熱くしながら「Good-by」6名が言葉の壁を超え、貴重な何かを手にした瞬間、でした。

ホーム．．．別れの時

朝、天気は晴れ。午前8時過ぎ、団員はリングの駅にそれぞれのファミリーとともに集まってきました。名残惜しく、別れがたく、写真を撮って、肩をたたき合っ、何度も何度も握手を交わし、「ファヴェル」。列車が動きだしたその時、フッと窓の外を見ると男の子がホームを走りながら手を振っていました。誰かがポツリ「泣いてたね。俺も泣きそうになった」6名は、国境を越え同世代の仲間との交流を見事に成し遂げたのでした。



《リズィーサンダー会長と》



《いよいよお別れです～ホームにて》

【まとめ】

いよいよ研修も終わりに近づき、一行の心は「帰りたくない」でも「登別がなつかしい」の間で揺れ動いていました。しばしの列車の旅、そしてカストラップ空港到着。

荷物を預けようとする、カウンターの係員が笑顔で「ニモツ」「パスポート」。スーツケースを乗せるベルトが止まるところから出て来て、バンッ！と蹴りを一発。どこの国でも古い機械の扱いは同じだ、蹴飛ばしたりたたいたりすると直る、と再確認しました。2時間ほど空港内で過ごし、11時間かけて日本時間8月22日午前9時7分、成田空港に着きました。リムジンバスで羽田へ移動。子どもたちと最初に食べた日本食は“そば”。羽田から新千歳までの短いこと。市の方々の出迎えを受け、バスで登別市役所へ。午後5時、予定通り無事帰着しました。

今回の研修をとおして感じたことは、日頃からのALTの先生とのやりとりが少しずつ子どもたちにコミュニケーションの力を付けていること、課題発見・解決能力、表現力、判断力など生きる力を育む教育活動が実を結びつつあることを実感しました。しかし、「もう少し英語が話せたらなあ」「自分の気持ち、伝わったかなあ」「もっと英語を勉強する」の言葉にあるとおり、子どもたちはまだまだ発展途上。そして、子どもたちの成長は一人一人違います。今回の研修の成果がすぐに現れてくる子どももいれば、何年か経ち体現する子どももいます。何より大切なのは、この研修を通してデンマークのバックグラウンド～他国の歴史や文化、生活習慣などを理解すること～、それがふるさと“のぼりべつ”のよさを再発見したり、ふるさと“のぼりべつ”を大切にしていこうとする心と行動につながることで、そして『自立』と『共生』という視点から国際社会に生きる人となることです。研修に参加した子どもたちは、必ずやふるさと創生を担う青年たちへと成長していくと確信しております。

事前研修、事後研修でご指導いただきました担当の東主幹、鈴木参与、お世話になりました。突然の申し出にもかかわらず、英会話を指導してくださいましたALTのニッキとリサ、ありがとうございました。引率者として生徒と行動を共にしてくださいました緑陽中堂坂先生、お疲れ様でした。心地よい疲れを味わうことができました。また、特段のご高配をいただきました登別デンマーク協会の皆様、ファボ



《「ただいま！」市役所裏にて》

ー・ミッドフュン・登別友好協会の皆様、教育委員会の皆様、
本当にありがとうございました。

終わりにになりましたが、これからの時代を創造していく子どもたちに、その力を付けるべく貴重な体験をさせてくださいました登別市に心より厚く感謝申し上げます、研修報告といたします。

平成 22 年度登別市中学生海外派遣研修報告

登別市中学生海外派遣団

引率教諭 堂坂 桃

(登別市立緑陽中学校教諭)

【はじめに】

昨年度の本事業は新型インフルエンザ蔓延の影響でやむを得なく中止され、昨年からの派遣団を率いることが決定していた勝校長先生と私は1年越しの参加となりました。

私自身、部活動で大勢の生徒を遠方まで引率した経験はあるものの、異国の地での引率はもちろん初めてでした。緊急のトラブルや生徒の不調に対応しきれないかどうかの不安もありました。しかし、勝校長先生をはじめ、東主幹、鈴木参与、登別デンマーク協会の方々の大いなるサポートのお陰で、生徒が不自由なく充実した研修を終えることができました。心から感謝申し上げます。

デンマーク紀行の詳細は他の派遣団のメンバーが記していますので、私はやや違った視点で海外派遣の報告をさせていただきたいと思います。

【事前研修で生徒を育てる】

今回の海外派遣に際して事前、事後合わせて15回の研修を行いました。派遣団生徒を決定し、6月末に結団式が行われました。行程表を見て驚いたのは、添乗員や市の職員が同行する研修ではなく、すべてを派遣団自身で考えて行動する研修であることです。他の市町村の学生海外派遣ではすべての行程を案内してくれる専門の方がいる場合も多いのです。治安が良く、温かく気取らない国民、そんなデンマークだからこそ可能な形態なのだと思います。この研修は私たち派遣団にとって、今まで培ってきた生きる力を試し、コミュニケーション力を向上させることができる大変有意義なものになると確信しました。

派遣生徒のための事前研修は現地の学校等で披露する歌とダンスの練習がメインとなりました。各中学校でリーダーシップをとることに慣れているであろう生徒たちも、研修初期の頃は控えめで、アトラクションの本質である楽しさを表現できるほどのエネルギーがありませんでした。そのような中、勝校長先生から海外派遣に参加する目的や出発までにしなくてはならないことを生徒達自身に考えさせるお話をさせていただき、生徒の自覚と自主性を高めていきました。ここに来て本当の意味で、研修を始動することができました。生徒の自主性や生徒同士の共感を導くことの重要性を再実感しました。

【生徒が取り組んだアトラクション・現地での披露の様子】

研修の中で取り組んだアトラクションは6つです。登別地獄まつりでお馴染

みの「鬼踊り」。本番では現地の方全員に鬼の面を配り、皆が輪になって掛け声をかけながら交流することができました。

英語の歌として、スティービー・ワンダーの「I just called to say I love you」に取り組みました。最近の中学生は洋楽離れしていてこの曲やスティービー・ワンダーも知らないとのことでした。練習が進むにつれ、だんだんこの曲の良さに気づきやや難しい歌詞の言い回しもマスターし、カラオケで歌いました。現地の老人施設でこの歌を歌うと、場の雰囲気がとても和み、手拍子をしてくれ一緒に歌ってくれた方もいらっしゃいました。そこにいる皆が温かい気持ちになれました。

日本語の歌としては、ジブリ映画「となりのトトロ」の「さんぽ」です。私達の事前研修期間中に登別を訪れた、デンマーク人のピアニストポール・バルスレヴさんのコンサートでもこの曲は演奏され、デンマークでも大変有名であるとお聞きしました。

派遣団の松田綾希子さんがピアノ伴奏を担当し、生徒達自らがステップを踏みながら歌い曲の2番からは歌いながら会場内にいる人たちに笑顔で手を差し伸べて手を繋いでいきます。連なっている人数が3人、4人...10名、20名とどんどんと広がり、最後には会場全員の手が一つの輪になってつながりました。この曲が持っているリズムカルなかわいらしい雰囲気に子どもたちは笑顔になりました。

デンマーク語での歌は「Mester Jacob ~メスターヤーコブ~」です。大変短い歌ですが、日本でも誰でも知っているメロディーに乗せて、デンマーク語で練習しました。現地では、アカペラで輪唱すると自然と拍手が沸き起こりました。リングフリー校の生徒とともにレゴランドへ向かうバスの中で、生徒達皆で楽しそうに歌っていたのが印象的です。

ダンスは嵐の「Happiness」と、鷺別中学校で生徒会メンバーが伝統的に踊り続けていて全校生徒で大変盛り上がるという「青春群舞」です。歴代の派遣団の生徒も「青春群舞」を踊ったそうです。生徒達はダンスを通して楽しい雰囲気を伝えられるかを模索しながら、猛暑の中熱心に練習に取り組んでいました。

デンマーク滞在中に披露したアトラクションは、120%の力を出し切ることができました。派遣団皆で力を合わせて努力したことが自信になったのでしよう。



ヘンリーエッテヘルク校でのアトラクション披露



リングの老人福祉施設でのアトラクション披露

【英語を生かす】

事前研修の中で英会話の研修も数回行いましたが、披露するアトラクションの練習に追われ手薄になってしまったことを反省しています。私が行った英会話指導は、シチュエーション別の会話表現でした。例文はやや長く、読めない単語もあり中学2年生の生徒にとっては難しいものであったにちがいません。登別市のALTであるニコール・ロバートソンさんとリサ・パススさんに2度研修をお願いしたところ快く引き受けてくださいました。ホームステイ先の夕食後の団欒場面のロールプレイや、ALTのお2人が自作して下さったすごろくゲームなどで英語でのコミュニケーションに慣れることができました。

おそらくはじめて外国人と1対1でゆっくり時間をかけて会話をした生徒は、「なるほど、こういうふうに答えるのだな」と充実感を得ていました。会話時におけるアイコンタクトの大切さも指導していただきました。

生徒は2年生になったばかりで、1年間分の語彙力しかありません。特に一般動詞の語彙力が不足していて現地でのコミュニケーションに困難があった場面も見られました。おみやげ屋での買い物の後、現地生徒が派遣団生徒に「What did you buy?」とたずねました。派遣団の生徒は聞き取れなく「??...」。たまたま側にいた私がゆっくりと「What did you buy?」と言いなおしても、buyの意味が分からずに戸惑っていました。このような簡単な会話こそが大切であり、会話の積み重ねで心が通じ合っていくのです。

もっと生徒が自信を持って、英語を発話できるようになるまでの粘り強い指導と教材作りが必要であったと感じています。そして、教科書で未習の部分にもふれて学習する必要があると感じました。

私自身、英語圏でない国での研修は初めてでした。デンマークでは一般の方でも英語が流暢で、コミュニケーションではどこでも英語を使うことができます。一般に「英語は世界共通言語である」と言われていますが、その意味を痛感しました。お互いに母国語を持つ人々でも、英語が人と人を繋いでくれるのです。そのような英語の素晴らしさを日本で生徒に伝えていくのが英語教諭の私の使命であることを、道中心にかみしめました。

【笑顔と共感の大切さ】

派遣団生徒は今回の異国の地での生活、異言語の人との生活を通して様々な壁にぶつかり、それを乗り越えてデンマークの人々と心を触れ合わせることができました。ホームステイの初日には、自分の意志がうまく伝えられないもどかしさを感じた者、ホストの子どもさんとのコミュニケーションがかみ合わなくて悩んでいた者もいました。しかし生徒はその困難を乗り越え、ホストの方々の親切さに触れ心を熱くしていました。

リングを旅立つ列車の中で、私達派遣団はリングの方々の方々の善意を振り返り感動いたしました。次代を担う生徒達には、私達がいただいた善意を今度は周り

の人に与える側に立って欲しいと思います。

研修中、私は日記に記しました。

言葉はうまく通じなくとも「笑顔」と「わかり合おうとする気持ち」があれば、人はお互いに変わっていくことができる。

友好都市協定書

デンマーク王国リングゲ市及びウイスリングゲ市と日本国北海道登別市は、1997年に「友好の絆」を交わして以来、リングゲ・ウイスリングゲ・登別友好協会と登別デンマーク協会との両協会の活動を積極的に支援し、双方の市民の友好と相互理解を深め、友好交流を積み重ねてまいりました。

これらの交流は、両市民の文化・教育の面においても拡がりを持たせるものであります。

この度、リングゲ市、ウイスリングゲ市が近隣のまちと合併し、ファボー・ミッドフュン市として誕生したことを記念する年になお一層両市の絆を強め、ファボー・ミッドフュン登別友好協会（旧リングゲ・ウイスリングゲ・登別友好協会）と登別デンマーク協会の積極的な支援を継続するとともに、両市の相互理解と信頼のもとに市民交流、文化交流の推進を目指し、ここに友好都市協定を締結します。

平成19年(2007年)6月10日

The Establishment of Friendship Agreement

Since the signing on the Bond of Friendship between the municipalities of Ringe/Ryslinge and Noboribetsu City in 1997, our three cities have been positively supporting the activities of both the Ringe/Ryslinge-Noboribetsu Friendship Association and the Noboribetsu Denmark Association to deepen mutual understanding and build up friendship among our peoples, and the fruit of the activities has extended to cultural and educational fields.

According to the formation of the new Municipality of Faaborg-Midtfyn, both our cities will strengthen the ties of friendship even more, and continuously maintain the activities of both the Faaborg-Midtfyn-Noboribetsu Friendship Association and the Noboribetsu Denmark Association. Our goal is promote friendship and cultural exchanges based upon mutual appreciation and reliance.

In accordance with the above mentioned guiding principles, The Municipality of Faaborg-Midtfyn and The City of Noboribetsu will subsequently outline a more elaborate description of the fields of co-operation and how the goals of the agreement is best achieved.

We hereby give our signatures on the Establishment of Friendship Association.

June 10th, 2007



ファボー・ミッドフュン市長
Mayor of Faaborg-Midtfyn
ボー・アナスン
Bo Andersen



登別市長
Mayor of Noboribetsu
上野 晃
Akira Ueno